夢洲と南海トラフ巨大地震による大津波

大阪湾の埋立地・夢洲への大阪 IR カジノ誘致は、軟弱地盤の液状化や地盤沈下などで国土交通省からも懸念の声があがる。問題はそれだけではない。大阪日日新聞 12 月 4 日「潮騒」から。

万が一の際の責任の所在を明確にしておく必要がある。大阪府・市が誘致を進めるカジノを含む統合型リゾート施設(IR)を、南海トラフ巨大地震が襲った場合の被害についてだ◆

政府の地震調査委員会は 30 年以内の南海トラフ巨大地震の発生確率を 70～80%と算出している。大阪 IR の事業期間は 29 年秋頃からの 35 年間で、事業者は原則として 30 年間の延長を申し出ることができる。つまり、事業期間中に 7、8 割の確率で巨大地震が発生するということになる◆

IR については現在、国が認定の可否について審査を行っている。観光庁の担当者は誘致先である大阪湾の人工島・夢洲について「土地は重要な審査項目で、夢洲の土地課題も認識している。南海トラフがあることには意識を置いている」という◆

夢洲については地盤沈下や液状化、土壌汚染などの問題が指摘されているが、具体的にどのような審査を行っているのかは不明だ◆

高い確率で巨大地震が起こる軟弱地盤の土地に、高層の商業施設を建てて実際に被害があった場合、責任を負うのはいったい誰なのか。誘致した大阪府・市なのか、お墨付きを与えた国なのか、運営する IR 事業者なのか、設計や建築を担った事業者なのか。想定外ですませられる話ではない。

「潮騒」を読んで、田結庄良昭・神戸大名誉教授の論稿「(『これでもやるの?　大阪カジノ万博』2017 年所収）を思い出した。南海トラフ巨大地震と津波についての指摘を抜粋して紹介する。

大阪府独自の津波浸水想定を見ると、夢洲の北西 1 区、・一部 3 区の護岸付近で 1m～2m から 0.3m～1.0m の浸水を想定しています。また、東部 4 区の湾入部では、0.3 から 1.0m の浸水想定が描かれており、浸水しないとする大阪市の説明とは矛盾します。

さらに津波は高速の流れです。大阪市の説明では、夢洲付近の海（深さ 10m）で秒速 5.5m と極めて速く、しかも波長が数 km～数 100km もあり、これが防潮堤にぶつかるので、津波の高さは、そこで急に高くなり、防潮堤を越える可能性があります。

夢洲の北西部の 1 区・一部 3 区から浸水した津波は、陸上を遡上します。津波は高速で波長が長いので、遡上高の多くは津波高の 1.5 倍以上になります。東日本大震災では、遡上高は津波高の 2 倍～4 倍にもなりました。奥尻島を襲った地震では、津波高は 15m ですが、遡上高は 30m にもなりました。夢洲では、津波の高さの 3.2m の倍の 6m の遡上高を考慮しているでしょうか。

（2022 年 12 月 6 日）